

あ。これはね、天職です。これ、おもしろい

語り手 藤野 順介（高校二期生 航空管制官） 聞き手 中川 瑛太

*

家族と仕事

―かりんとうは好きですか。

まあ、そうね。そんな、自分で好んでは買わんかな。でも、別に食う。まあ食う分には普通に食う。

―（かりんとうを出しながら）じゃあぜひ食べてください！なんかいいエピソードあったらいいなと思ったんですよね。おばあちゃんの懐かしい味で、みたいな。

ないなあ（笑）。そんな都合いいのいないなあ。

―お子さんがいらっしゃるんですね。

二歳児。一歳十か月ぐらい。もうすぐ二歳になる。なんか、自分で歩けるし。ああでもなんか、ちよいちよいこける。あと単語だけ喋る。電車！とかいう。一番最初に言ったのは「あっち」や。多分あっちに行きたいみたいな感じで言って、公園で歩いてたときに、あっち、あっちって言ってる。それが最初やった。それまではちよいちよい、赤ちゃん言葉みたいなの、「だあー」みたいなやつがずっと続いてたんやけど、なんかいきなりあっちって言った。その瞬間はやつぱりびっくりしたよ。「日本語喋った。ついに！」みたいな。はははは。

―子供ができたなら、世界が変わったとかありましたか？

だいぶ変わるよ。最初の方は結構仕事で、上に登り詰めたるぞみたいな感じで頑張ってたところもあったんやけど。それまでは、結構自分が自分の人生における主人公みたいな感じの認識やったんやけど、子供が

できた瞬間に、「あ、もうこれはバトンタッチやな」みたいな。仕事やってるよりも、その子供に対してなんか色々やっていくことの方が俺の人生においてメインになるなみたいな感じになった。

育休取ったりもして。一か月ぐらいやけど、ずっと一緒にいると、その子と家のことだけしかやらんっていう時間があるわけよね。ってなると俺のことよりもこの子のことをやらなアカンみたいな感じになってくるから。

*

今につながる高校時代

―通学はどうされてたんですか？

もう俺はチャリンコで。俺高校のときさ不良でさ（笑）。不良とまでは言わんけど。さつき坂先生（語り手の元担任。今でも本校におり、このインタビュの前に訪問していた。）も言ってたやん。「生意気で」みたいな。中学の頃からそうやってんだけど、全然朝起きれへんくて。朝弱すぎて。でも、高校になってからなんかめっちゃ学年主任の先生とかに怒られるから、とりあえず頑張って朝早く起きようとすんねんけど、なんかもう八時半ギリギリになるみたいな、そういう生活してた。だからあんまりいい生徒でいいじゃないわな。授業中もなんかずっと寝てたし。おもしろい授業は起きてられんねんけどな。しょうもない授業されるとな。そういうところがさつき坂先生に「生意気や」って言わせたんやろな（笑）。坂先生の授業面白かったけどな。やつぱり数学もなんか、なんかおもしろい先生はおもしろいから聞いているけど、おもしろい先生なるともう聞かへんみたいな。生徒のくせに、先生の授業の良し悪しを判断する（笑）。

*

―藤野さんは水フォークラムの運営とかしてはったんですよね。

あーあれも別に自分からどうしてもやりたい！みたいな感じじゃなくて、仲いい友達がやるから俺やろうかなってなっただけ。なんかそういう感じのノリ、軽いノリやった。あと、部活ちよつとサボれるし。

その頃ね、部活全員入れみたいなんあって、だから中学の頃からテニスやってたから、じゃあテニス入るかってやってただけで。別にそんなテニスがめっちゃめっちゃ好きってわけでもないし、一応やってるけど、みたいな。水フォークラムの準備とかにかこつけて、ちよつと部活休めたりできるやんって、大義名分やんっていうのもあったかな。

守山市民ホールのかい部屋借りて、世界の湖がある地域に住む世界の高校生を集めて、パネルディスカッションみたいやつやったりとか、ポスターで、湖がどうのこうのみたいなやつを、それぞれグループ作ってもらって、掲示して、質問答えたりみたいな、そういうやつをやってたかな。俺がやってたのはその運営の準備みたいな感じ。なんか結構裏方の準備してた気がする。正直あんまそのフォークラムの準備の内容覚えてない。なんかそのメンツと遊んでたことしか。

いまだにその頃に一緒にやってたメンツのLINEグループがあつて。今回のこの聞き書きの話も、そこそのLINEで来て、「じゃあ俺やるわ」みたいになった。珍しい話やけど、部活とかじゃなくて、水フォークラムの運営してた、六、七人ぐらい。みんな元々顔見知りではあったけど、水フォークラムに入って喋れるようになったみたいな人もいるから、基本的にはそこでグループになったみたいな感じ。まあ準備期間も長かったしな、三か月ぐらいやってたかな。もしかしたら四か月ぐらいかな。

―他の課外活動でいえば、留学もしてはったんですよね？

うん、してた。別に留学のために学校入ったわけじゃないけど。この学校行くの決めた一番大きい理由は、これもまたしょうがないけど、友達が何人か行くっていうのもあったんやけど、それはメインじゃなくて。俺、中学が隣のさ、守山市立中学校だったわけよ。だからもうほぼ隣やん。近いやん。家から。ここやな。つって。なんか偏差値もええ感じやし。ほんで、塾の先生にここを受けないんですけどって言ったら、「いけんじゃない？」「いい感じちゃう？」みたいな感じで。じゃあ、行きますわってなつて。

―高校を決めるときから大学の進路とか考えてはったんですか？

まあエスカレーターで行けるのはわかってた。留学行ってからわかったことやけど、交換留学制度使って一年間留学行くやつで、だから、その、高一の夏から高二の夏まで行くやつが、俺らの代は多分、十人ぐらいおったねんな。なんかオーストラリア行ったり、アメリカ行ったり、カナダ行ったりみたいに色々やったねんけど。

そんで留学行つて、帰ってきて、二年の夏で、大学の学部のアナウンスを取るタイミングが来るやん。それで、国際関係学部であつて、文系の中で一番偏差値高いらしいんやけど。二期生やから、一期生の人たちが先に進路希望をやってるわけ。その話を聞いてると、なんか学年でめっちゃ上位の方の十位以内とかの人とかでも、なんか留学に行つてなかったら国際関係学部を希望しないという噂があつて。確かに英語喋れへんくて、英語の授業とかもある学部に行くのもおかしいよなつて。普通は試験の点数順で上位から学部の希望が決まっていくなみたいな感じの制度で、俺の順位的に二百四十人中百二十、百三十、百四十みたいな、そのぐらいのラインやってんけど、留学行ったら国際関係学部行けるんつて。で、俺らの代もほんまにそういう感じになつて、留学行つてたや

つだけ国際関係学部希望して。あれ、学部までエスカレーターやみたいな。まあ良かったわ。英語の授業もあったりして。

ー英語はやっぱり留学で？

そやな。十ヶ月行つてたけど俺言いたいこと喋れるようになったなと思つたの八か月ぐらいやもんな。だから最後めっちゃ楽しかったな(笑)。最初はマジでもうなんか早く帰りたいってなつてたけど。最初の一か月目の終わりぐらいからさ、ちよつと何言つてるかわからんし、俺もなんか言つても全然伝わらへんし、ちよつと帰りたいなみたいな感じじゃつたけど。

高校入る前に応募したのよ、入試終わつてすぐ。で、とんとん拍子に行つて、親もいいよつて言うし、面接みたいのが一応あつて、交換留学合格みたいなの、じゃあいけますねみたいになつて。実際行けるつてなつた後に、なんか今考えたら一年ちよつとやりすぎたかなつてなつたな(笑)。

*

つながつた先

ーその経験が今でもなんか繋がつてることありますか。

まさに今の仕事は、それがなかったら多分やつてなかった。航空管制官つて英語で喋んのよ、全部。たとえ相手のパイロットが日本人でも、英語で全部無線で会話するから。だからその試験とかも結構英語の比重が高くて、公務員やから、国家公務員試験を受けるわけよ。国家公務員試験つて、大体みんな同じような試験を受けるみたいな感じなんやけど、それにプラスで専門科目みたいな感じで英語がめっちゃいっぱいあるみたいな。その英語ある程度喋れるとか、ある程度聞けるつて思つてなかったら、まずそういう仕事に就こうと思わへんやん。仕事ずつと英

語でやんないと無理やんつてなりそうやん。同じチームの人とかは日本語で喋つてるけど、無線で通信するときはな、パイロットが外国人のときもあるから。海外からでもいいばい飛んでくるからな。留学はそこに一番繋がつてるかな。

ーいつから航空管制官になろうと思つたんですか。

俺、全然最初は思つてなくて。大学のときにとりあえず公務員になるかつてなつて、安定とるかーつて(笑)。それで、就活めんどくさそうやなと思つて。

就活の何がめんどくさいつて、面接やんか、民間やともう第五次面接ぐらいまでめっちゃあつて、それちよつとめんどくさいな思つてたら、公務員試験は筆記やります、面接一回か二回で終わつて採用かどうか決まります、みたいな感じのところがほとんどやから、じゃあ公務員ちよつと楽そうや。就活楽そうや。つてなつて。なんかもう低きに流れてるよね。楽な方へ楽な方へみたいな。それもあつて、公務員になるから安定もするし、みたいな。安定が何かもようわかつてなかったんやけどな。公務員になるかと思つて、大学のときに普通の公務員受けたんな。市役所とか県庁とか。

第一志望は滋賀県庁やつて、最初の方、筆記は良かったけど面接落ちてみたいな感じで。公務員試験の順番つて国、県、市やねんな。でも国を受けてへんかったから、初めての面接で第一志望でつてなつて。案の定落ちたな(笑)。ミスつたなと思つて、ああやつてもうたなと思ひながらも、市役所受けて、京都の宇治市役所に受かつて、最初そこに勤務してて。もう忘れもしない最初の出動日。

最初新しく入る人たち、同期が全員一部屋に集められて、オリエンテーションみたいなやつがあるんやけど、それを聞いてるときに、「俺、

ちよつと早く転職しようかな」って。なんで思ったんかわからへん。ちよつとなんか漠然と、ちよつと早めに転職しようかなーって(笑)。

一日目にしてそうなるって。それを密かに秘めつつ、最初の一年はとりあえずやろうか。さすがにこの夏とか秋ぐらいからもう一回転職活動するのはちよつとまだしんどいなと思って、一旦一年やるかつって一年やって、で、その一年経ってまた四月を迎えて、自分の心境がどう変わってるかもわからへんかったから一年やって。で、どうなったかっていうと、「うん、転職しよう。」って感じ。

まあ言うたら事務仕事なわけよね。その書類がどうだとか、法律がどうだとか、そういう細かい話をいっぱいやるみたい。で俺はこういうのはあんまり好きじゃなかったんやと。っていうことは、滋賀県庁ももしかしたらそんなかもしれへんなと思って。一応第一志望やったから、二年目のときから受けようと思って、受けつつ、もうちよつと幅欲しいなと思って、なんかいいのないかなと思って検索したら、この航空管制官も国家公務員ですっての見つて。あ公務員や。いいやんってなつて。しかも英語使えるやん。

市役所に入ってもさ、結局英語使うことないからさ、もしかしたら国とか県庁とかレベルやったら使うこともあるんかもしれんけど、もう少しなくとも市役所はほばないから、ああ、じゃあ、これいったら英語使えるやん。それで受けたら、なんか知らんけど受かつちやつた。だから二年で市役所辞めて、そつから航空管制官になりましたね。

—航空管制官の仕事ずーと続けてはるから、やっぱこれが天職？

あ。これはね、天職です。これ、おもしろい。だって、それこそ教師とかそういう専門職みたいな職業って、それが合致する人がやれば、やりがいめつつや強いし、天職やと思えるん。専門職やし。なんかそれは

強いんかなと思つてな。普通さ仕事は、やりたくないのをやるもんやん、基本的には。俺、あんまり今の仕事にそれを感じひん。これはやりたい仕事やなって思つてやつてる。めんどくさいことはめんどくさいなと思ひながらやけど。それこそ一日目に「あ、ここは転職するな」っていうような感覚は全然ない。俺は多分、多分勤め上げるやろうな、みたいな。求人見つけたときはもう結構これやなって思つた。ほんまに奇跡やつたなあれは。

*

愛するもの

—高校時代好きな教科とありましたか。

意外と英語全然好きじゃなくて。留学行く前は別にそんなことなかったんやけど、留学から帰つてきてしまふとかつこつきたいのもあるけど、そんなこと現地で喋らんかったけどな、みたいなやついっぱいあるから。だからこれやつてもしやあないんちゃう。みたいな感じやつたんや、そんなときは。でも別に今となつては、あ、そんなことないなつていうところもあるけど、あれもうちよつと真面目にやつといたらよかつたなみたいなときもあるけど(笑)。

意外と数学好きやつたかな。先生に依つたけど。数学は割と好きなタミングもあつたつて感じかな。でも理科が絶望的やつたよね。理科の中でも物理。物理なあ、俺まじでわからんくて。物理得意な友達に言わせれば、こんな公式覚えて応用させたいだけらしいけど、その応用が無理なんやつて。また公式もあんまおぼわらん。公式を覚えて、それとりあえずテスト始まつたらテスト用紙にばーって書いて、ここから選んで使うみたいなやつたけど、でも、いやでもこれこのまま使えへんわみたいな。頭が勝手に重箱の隅をつつくんよね。頭が邪魔してくるん。

いや、摩擦係数ゼロなんてありえへんやん。そのせいで全然でんかった。赤点取りまくってた気がするな。

得意じゃないかもしれんけど好きな教科は国語系やな。これは、なんか、その当時、先生がすごい熱心な先生が多かった。二年の担任やっけんけど、林順次っていう先生が国語の先生やって。ほんで太田先生っていう先生も国語やって、すごい、今までの高校の国語みたいな授業しようもないよなみたいな、教科書に載ってる文章を読んでこれの作者の気持ちがどうかね、そんなことどうでもよくないみたいな感じの先生方で。論文の書き方とか、論理的思考とか、そういう方向で教科書全無視でやってて。

それはそんな得意じゃなかったけど、でもめっちゃ面白かった。寝ないタイプの授業やった。そこで俺は、文章の書き方みたいな、こういう導入をして、こういう言い方をしてみたいな技術的なところを色々教えてもらったのがそこやったな。だから、文章書くのとかも好きではある。芥川龍之介読んだところでおもんないしな。書いた方が絶対おもろい。

―社会に出てから、結局、学んどくべきだったと思いますか。

まず何も学んでなかったらまず思考できひんかったやろ。考えられへんやろな、全く何も学んでなかったてのはあかんと思うけど。じゃあ学んだこと全部が役に立ってるかつたら、別にそんなことないから。でも、それはそういうもんかなっていう気もする。なんか別に身すり減らしてやる必要はないかなって思う。ある程度やってたら考え方は多分身につくから。

細かいこと、サインの計算ってどうやるんやっただけでなかったら、それはまた調べりゃいいかな。勉強の仕方わかってたら、そこでまとも

う一回勉強できるから。勉強の仕方までわかったら、あとなんか知識がどうのこうのって、別にもういいような気がする。受験もないわけやし。

―高校時代に起きる時間は何時ぐらいでしたか。

起きる時間は覚えてないけど、チャリでかつ飛ばして五分やねんな。多分普通にしたら十五分ぐらいかかってて、で、ちよっと急いだら十分、五分ぐらいやっただけな、家から学校まで。ホームルームの開始時間が何時何分やったかあんま覚えてないんやけど、急いだら十分で来れるから、開始時間の十分前に家出て、そのためにその五分前に起きるみたいな。だからホームルームの開始の十五分前に起きる。だから朝飯も食わんし、歯磨いて着替えて出る。で来てもホームルーム間に合えばあ間に合ったって寝て。起きたらもう昼飯だぞみたいな(笑)。

―あと、なんか仲良かった先生とかやりますか。

一番はその林順次先生。元々新聞記者やってて、新聞記者から先生になって、俺は卒業するまでおって、卒業した後は別の高校かなんかに転職みたいな感じで教えて。かと思ったら、最近はなんか北海道で農家やってるみたいな(笑)。流石に意味わからん。

―なんか思い入れとかあったんですか。

面と向かってちゃんと話聞いてくれた。わかってくれたみたいな。そのイメージはでかいかな。なんかちよっとヤンキーっぽいんよ。あんまり教師としてこっちに相手してこうへんかったわ。ちよっと上の兄ちゃんみたいな感じで来てたからそれがよかった。なんで農家なったんやろなあ。人の世に疲れたんかもな(笑)。いや、でも新聞記者のときはもう死ぬほど激務で働いてたし、高校のときもやたらと、なんか校長とか教頭とかと戦うみたいな感じ。だからもうだいたいぶすり減らしてたと思

う。多分もう疲れたんちゃうかな。新書も二冊くらい出してさ、「教育論」とか何とか。十分頑張ったんちゃう？

あと太田先生な、あの人は水フォーラムで関わってた。あと国語ちよいちよい担当してたか。でも基本水フォーラムのなんか担当教育みたいな感じやったから、そこで色んな調整とかしてた。

*

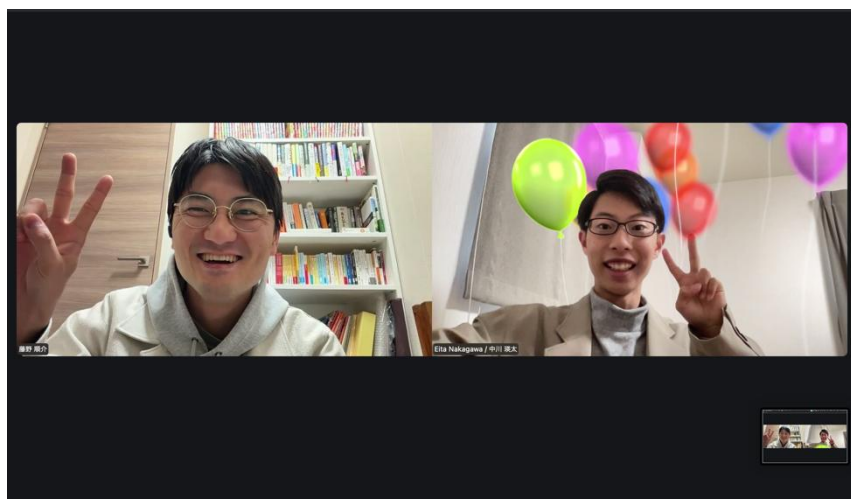
（校舎の窓から外を眺めて）まだやっぱ田んぼ多いなあ。もうちよつとなんか増えてるかなと思っただけだな。あでもグラウンドできたんか。あそこ俺がいたとき、田んぼやったからな。

―（歩いている先生を見て）みんな残業まだまだ多いから。

そのうち農家始めんちゃう（笑）。すり減った先生は須く農家始めるから。はははっ。

【感想】

語り手である藤野さんは、常に朗らかな笑顔を浮かべて全ての話題を明るく、ポジティブに捉えている方でした。ひとつ話し方を変えてしまえば聞くのが辛い内容になってしまいそうなものを、藤野さんは幸せな人生の一部として捉えているような気がします。全てを明るく、おもしろく、楽しく変えてしまう藤野さんを文字通り心から尊敬します。あんな人になりたい、と思った人でした。



右：聞き手 中川 瑛太

左：語り手 藤野 順介さん